

平成 2 8 年 度 同 好 会 事 業 報 告

哲 学 同 好 会 世 話 係 名 依 田 周 二 会 長 名 高 木 学

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参 加 人 員
5 月 2 日	同 好 会 発 足 会 、 世 話 係 ・ 会 長 会	1 0 名
7 月 2 9 日	哲学同好会夏期講習会 第 1 部「哲学講演会 ～命を哲学する～」 第 2 部「哲学を語る夕べ」（懇親会を含む）” 会 場 ： 普 願 寺 講 師 ： 普 願 寺 副 住 職 業 田 昭 映 氏	1 0 名

平成 2 8 年度の哲学同好会は、会員数 1 0 名で発足しました。

暑い夏の盛りだった 7 月 2 9 日に毎年恒例となっている夏期講演会が行われました。須坂市南原にある普願寺副住職の業田昭映先生に講師をお願いし、ご講演をいただきました。

講演の中では仏教の根源的な考え方について教えていただきました。仏教の旗印とも言える四法印とは諸行無常・諸法無我・涅槃寂静・一切皆苦であり、この四法印を会得するために仏門にある人々は修行に明け暮れるのだそうです。

わたしは小学校の教職員として子どもの前に立ち、日々よい授業、子どもたちが分かる授業を目指しているつもりでした。ですが、先生のお話をお聞きして、自分の底がいかに浅いものだったかを再認識させられました。子どもたちに社会の時間、「仏教を中心とした国作りを・・・」と話している自分、国語の時間に平家物語の冒頭を扱い、「諸行無常とは・・・」と教えている自分、そんな自分が実は仏教のことなど何も分かっておらず、それこそ辞書を引いて載っているようなことを、あたかも自分の言葉のように子どもたちに伝えていただけだと気づかされました。

日々を過ごす中で、ともすると浅学非才なわたしのようなものは、ただただ多忙感に流され、授業や学校と直接関わりのなさそうなものには目を向けようとしません。しかし、教え方がどうという以前に、わたしたち自身が対象を少しでも深く理解し、その魅力に触れようという意識を持っていなければ、子どもたちにその面白さを伝えることは難しいでしょう。

哲学とは「愛智」を意味する学問的活動であるといいます。夏の一時、知的好奇心を刺激してくれる素晴らしい講演会でした。 （会長 高木学）